

人もいました。だけど、エクラに関わっていただくことで、結局は市民活動が活性化しているのだから、目的は同じほうを向いているのでは、とも思います。

市民活動の拠点として、エクラは私たちに任せられました。「市民の手に委ねられた」という事を「個人が自由に出来る」と解釈をされる方がいて、その考えの行き違いは、一番しんどいところですね。

「信じてやっていくことで何かが変わる」

—この仕事をやって良かったと思われるときは？

その中でも、分かってくださる人が出てくる。支援センターのやっていることはダメだと、見切りをつけて去る人もいれば、面白いと言って新しい人が入ってこられる。昔の私なら、みんなに理解してもらおうと思いましたが、そうじゃない。分かってくれる人がいるのなら、信じてやっていくことで何か変わってくるんじゃないかと思うようになりました。例えば、「ガーデニング委員会の方が寒い時も暑い時も笑顔で、「エクラの花壇がきれいなのは私たちがしているからだと思う、やり甲斐を感じます」と言ってくださるとき、本当にうれしい。

—準備委員会の期間に見えなかったものは？

やはり法人としての活動期間が欲しかったですね。職員や会員さん、理事さんも含めて、法人としての意識や実力や組織づくりがきちっと出来上がってからスタートしたらよかったです。どちらもあやふやなままのスタートで、訳が分からないなかでここまできちゃったというメンバーの方もきっと多くいらっしゃるはず。

NPO法人が預かっているエクラなのですが、外から見たらどうしてもエクラでしかない、みたいなのがありますね。

—エクラって、誰がどんな仕事をし、どんな人がどんな活動をしているところ？

すごく多岐にわたっています。(組織図を見せながら)。職員の仕事のほかに、委員会がこれだけあります。必要に応じて、委員会ができたりなくなったりしています。例えば、託児委員会は託児ルームをどのように使ってもらおうか?に始まって、今はアルシェ子育て支援委員会と名前を変えて発展的に活動しています。コンサート事業などは、とても目立ち、みなさんが一番関心を持ち、関わってくださっていますが、うちの組織全体の中で見れば、ほんの一部分なんです。

—市民の理解度は？

ホームページで紹介したり、視察や見学の方にお話させていただいていますが、ある意味、市外の人のほうが理解されているかもしれません。ふつう施設管理を見ると、ビル会社のほうが上手なんです。うちみたいに、NPOがビルの管理も事業の運営も一緒にやっているのは、非常に稀なケースなんです。ですから、なかなか理解しにくいかもしれませんが、でも、施設管理をうちがやっていることで、みなさんの活動の場所も確保することができているんです。ですから、もっと市民のみなさんの視点でここを使ってもらい、使い勝手を良くしていきたいです。

「指定管理者」って？

公の施設を民間の法人や団体などが管理運営できる制度。小野市が建てた「エクラ」の管理、運営を任せられたのがアルシェ。



「夢の卵が孵化する場、それがアルシェ」

—事務局長の考えるアルシェとは？

私はプランターだと思っています。ここに土が開放されています。そこに、各々が種を蒔き、水をやり、大事に育てながら、いろんな人との出会いがあり、気づきがあり、達成感や生きがいを見つけていって欲しいと願っています。

それは一部の人専用の土でなく、固定された縄張りでもありません。たまたまエクラに足を運んだ人が、いろんな情報に出会うきっかけとなり、出入りしているうちに自分にふさわしい活動の場が見つかる。そういういろんな人に関わってもらえるようなしくみづくりを考えていきたいと思っています。

例えば、クラシック人口はまだまだ少ないですが、音楽の素晴らしさは知ってもらいたい。

そのために、「～吹奏楽～school楽演奏」というイベントでは、吹奏楽に親しんでいる学生が一同に集まって毎年演奏会を開いています。ガル・コンサートやピアノマラソンなど、敷居を低くして底辺を広げていきながら、みなさんの夢の卵が孵化する場所となれば嬉しいですね。

—アルシェの「ここをなんとかしたい」ところは？

子育て、シューベルティアーデ小野や桃剛之実行委員会、それに貴方がた広報委員会など、各々の委員会や実行委員会は独自に活発な活動をされています。2年たったこれからの課題は、その横の連携ですね。そのために、「例会」がうまく回って欲しいと思っています。例会で各委員会や実行委員会がやろうとしていることを報告してもらう。そこから、横のつながりで何かをしていきたい。例えば、クラシックが好きな委員会と歴史が好きな委員会とが協力して、互いの持ち味を引っ張り

出しながら何か新しいことに挑戦していくような方向にいけばいいですね。なのに、出席率が悪いのが悩みです。アルシェに関わる人全員が参加できる場が例会。だから、その案内は毎月、200数通を欠かさず送っています。来れる時だけでもいいので、ぜひのぞいてみてください。参加することで、アルシェを知る機会を持っていただきたい。

—アルシェが目指しているものは？

アルシェ自身は膨れ上がって大きくなるものではないと思っています。各々素晴らしい活動をされている委員会が、将来的に自立して欲しい。子育て支援委員会がNPO法人を取って、ひとつの自立した団体となって、その活動拠点がうちであればいいな、と。そのように、ひとつひとつが自立して、アルシェを中心に集まって、それをコーディネートするのが私たちの役目だと思っています。最終的には、北播磨NPOネットワーク協議会みたいなものを作っていければ嬉しいですね。

今回はお忙しい中、ありがとうございました！
事務局長の熱い思いがみなさんにも伝わったでしょうか？
アルシェの事をご理解いただければ幸いです。

「例会」って？

アルシェに関わる人が一同に会する会。月1回行われているよ。年間のスケジュールを決めて、各委員会やチームが担当しているんだ。そば打ちからまちづくりを考えるワークショップなど、月ごとで内容が違うよ!!

NPO法人北播磨市民活動支援センター 運営組織図

